

授業改善につなぐ学習評価の在り方に関する研究（中学校）

－ 形成的評価の実践上の課題に着目して －

（1年次）

中学校における学習評価の課題を分析し、授業改善を促すための学習評価の在り方について提案すること。

↓（具体的には）

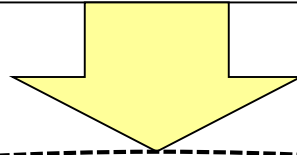
形成的評価を不断に行い、学習改善や指導改善を進めていけるようにするための学習評価の考え方や方法等に関する提案

〔1年次に明らかにすること〕

- ① 形成的評価を実施するに当たって、どのような課題があるか。
- ② ①の課題を踏まえ、形成的評価を実施していくためのポイントは何か。

〔学習評価の改善の方向性〕（H31.1「報告」）

- 生徒の**学習改善**につながるものにしていくこと
- 教師の**指導改善**につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



「改善通知」（H31）から3年
学習指導要領の実施から1年以上
学習評価の改善, どうなってる？

義務教育指導課作成の 校内研修用資料(R2)

公立中学校長会の調査(R3) 評価について困っていること

参考資料№20 義務教育指導課

校内研修のススメ ～「学習評価の改善」編～

令和2年8月6日

小学校等は、今年度から新学習指導要領に基づいた学習評価が始まった。これまでの実践を振り返りながら、特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、**あらためて校内で確認する研修がしたいなあ。**

中学校等は、来年度からの学習指導要領全面実施に向け、教科担当制であることも踏まえて、**あらためて学習評価の基本的な考え方や方針を校内で共有しておく必要があるなあ。**

こうしたリクエストにお応えできるよう、**学習評価に係る校内研修のモデルを例示します！**

「既の実践したよ！」という学校も多いと思います。各学校のニーズに応じて「いいとこどり！」で実施してみてください！実施済みの内容にチェックを入れながら、取り組んでみましょう！

- 1 NITSオンライン講座 №33「新学習指導要領に対応した学習評価」を視聴しましょう**
オンライン講座アドレス <https://www.nits.go.jp/materials/youryou/>
まずは、学習評価の基本的な考え方をとおまかに捉えましょう。
文部科学省の 長尾麻志 主任視学官の説明を20分程度の動画で視聴できます。
- 2 「学習評価の在り方ハンドブック」(小・中学校編)を確認しましょう**
 - 学習評価の基本的な考え方やポイント等について、トピックスごとに解説してあります。
 - 学習評価に関する配慮事項等を、教師向けQ&A方式で解説してあります。
 - 新学習指導要領や解説、報告、通知等、各種資料の本文の二次元コードが掲載されています。

ハンドブックを基に、「三つの観点により、各教科等の学びを、どのような方法で評価していくか」等、「分からない」「知りたい」「困ったな」を共有し、校内研修をスタートさせましょう。
- 3 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を活用した校内研修を実施！**
 - 各教科等別に、総説、評価規準を作成する際の手順、**単元ごとの学習評価の事例等**を掲載

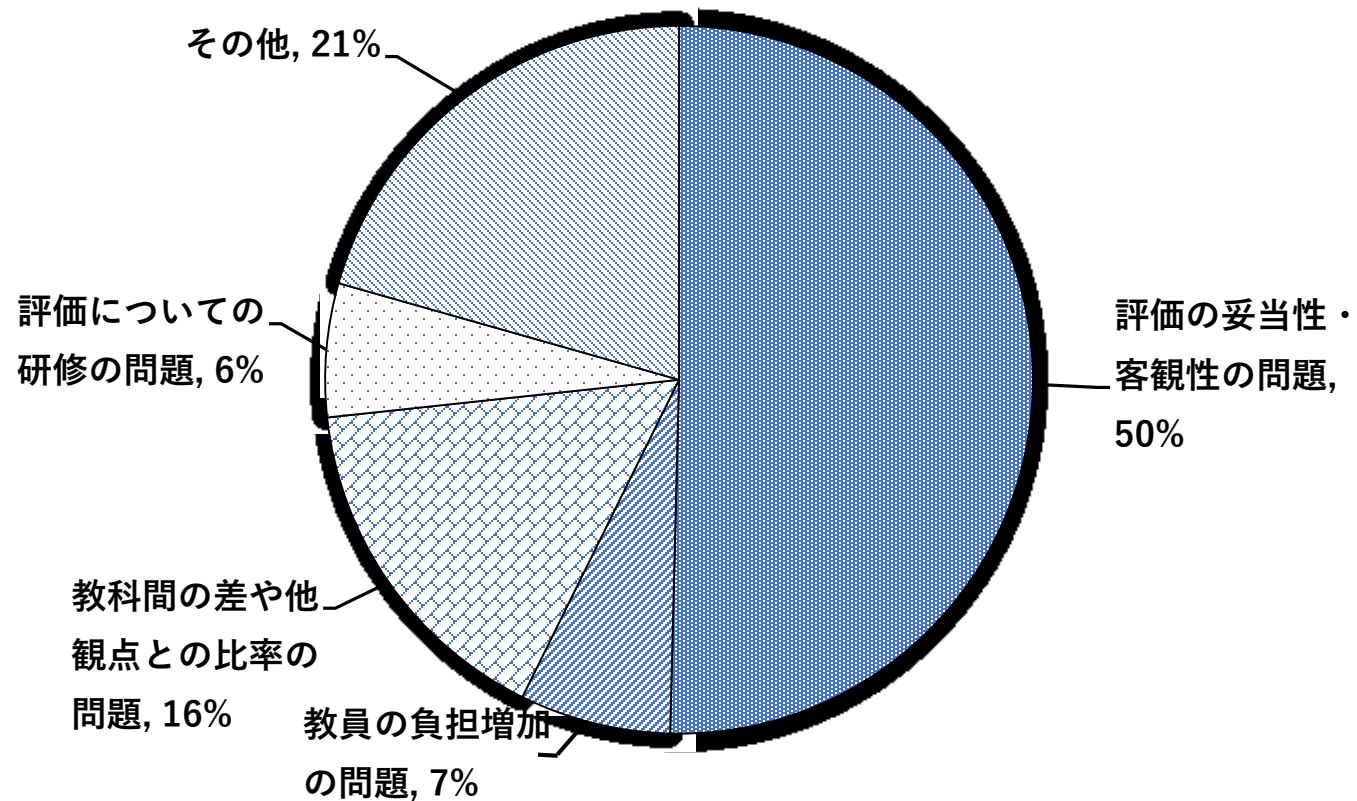
校内研修の例【テーマ】「主体的に学習に取り組む態度」の評価について学びたい！

 - 期評を決めて、各教科等の参考資料を分担して読み、掲載された「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の事例を付箋紙にまとめます。全体で共有します。
→複数の教科等の評価方法を比較することで、理解が深まります。
 - 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際の材料として考えられるもの(ノート、ワークシート、レポート、発言や活動の記録、自己評価等のコピー)を持ち寄ります。
→評価する際の材料として、どのようなものが考えられるか明確になります。
 - いずれかの教科について、参考資料に例示された評価規準を踏まえ、例えば②のノートを3～4名分取り上げ、それらをどのように評価するか協議します。
→実際の学習評価のイメージが共有できます。
※ 小学校算数の参考資料(P56)には、実際のノートを基に評価する事例が収められており、このページを活用して協議する方法も効果的です。

①②③の流れで実施するのがおススメですが、まずは参考資料を読むことと目標を立てる、記録の扱いの先生方のために③を中心に行う等、学校のニーズに応じて、アレンジしましょう。

4 “全ての教師が自校の学習評価の方針を説明できます” → 学習評価の適切な実施・充実へ

校内研修担当の先生方へ 参加、交流をキーワードに、研修を通じて全員が自然に「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を読み深めていくしかけがある。「楽しい」「ためになる」研修を企画してみましょう！ →裏面に続く



広島県公立中学校長会「令和3年度 研究集録」(R4)による。

形成的アセスメント		
(初期の) 形成的評価	学習のための評価	学習としての評価
・ 教師主体 ・ 指導改善のため	・ 教師主体 ・ 指導改善と学習改善のため	・ 学習者主体 ・ メタ認知能力の育成のため

目標に照らして生徒の学習の状況を見取り，教師の指導改善や生徒の学習改善に生かすとともに，生徒自身が主体的に自己の学習を調整していけるようにする評価。

形成的評価の成立要件

評価規準

評価規準を理解
している。

評価規準を生徒と
共有する。

評価規準との差
を把握してい
る。

差を埋める方法
を指導される。

差を埋めるための指導をし
たり，差を埋める方法につ
いて指導したりする。

評価規準に照らして生徒の状況を把
握し，それをフィードバックした
り，生徒自身も自分の状況が分かる
ようにしたりする。

評価規準の設定・理解

Sadlerの3条件
→生徒の役割を示す

教師は，生徒が学習改善に
向けて動けるように，実態に
応じて段階的に指導

自分の学習状況

〔Black, P&William, Dら〕

- ・ 教師の質問が思考につながらない。
- ・ フィードバックが学習改善に役立っていない。
- ・ 自己評価や相互評価が積極的な学習改善に至っていない。

〔県内中学校教員110名への実態調査〕

- ・ 評価規準の設定の仕方と運用に課題。
- ・ 学習改善までを意図して一貫性をもって、評価規準の共有、評価の実施、フィードバック等を行うことに課題。

評価規準を単元の学習活動と結び付いたものにする。

学習改善を意図して評価規準を生徒と共有すること。

評価場面を計画的に設定すること。

生徒の思考を見取れるような発問をすること。

生徒が学習改善に役立てられるようなフィードバックをすること。

生徒による学習改善に向けた自己評価や相互評価を実施すること。

実践上のポイント

- 【1】
目標に到達した生徒の学習の状況を具体的に想定して評価規準を設定し、その評価規準と評価方法、学習活動に一貫性をもたせた単元を設計する。
- 【2】
目標の到達に向けて、生徒の思考を促し、生徒が試行錯誤しながら学習活動に取り組むことを求めるような問いや学習課題を設定する。
- 【3】
単元の評価規準と学習活動の関係を生徒が理解できるように明示する。
- 【4】
段階的・継続的に相互評価を導入し、生徒が自己の学習の状況を把握し学習を調整できるようにする。
- 【5】
生徒が自分の学習の過程を見直して、次に向けた改善について考えられるようなフィードバックをする。
- 【6】
学習改善を前提にして、生徒が協働的に学習を進める文化を醸成する。

課題となる事項をどう実践しているか

C E R I

横浜国立大
附属横浜中

埼玉大附属中

【1】

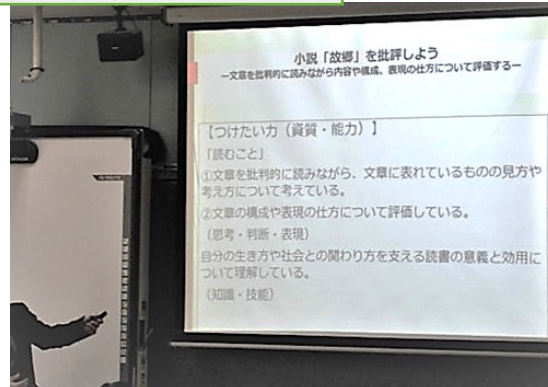
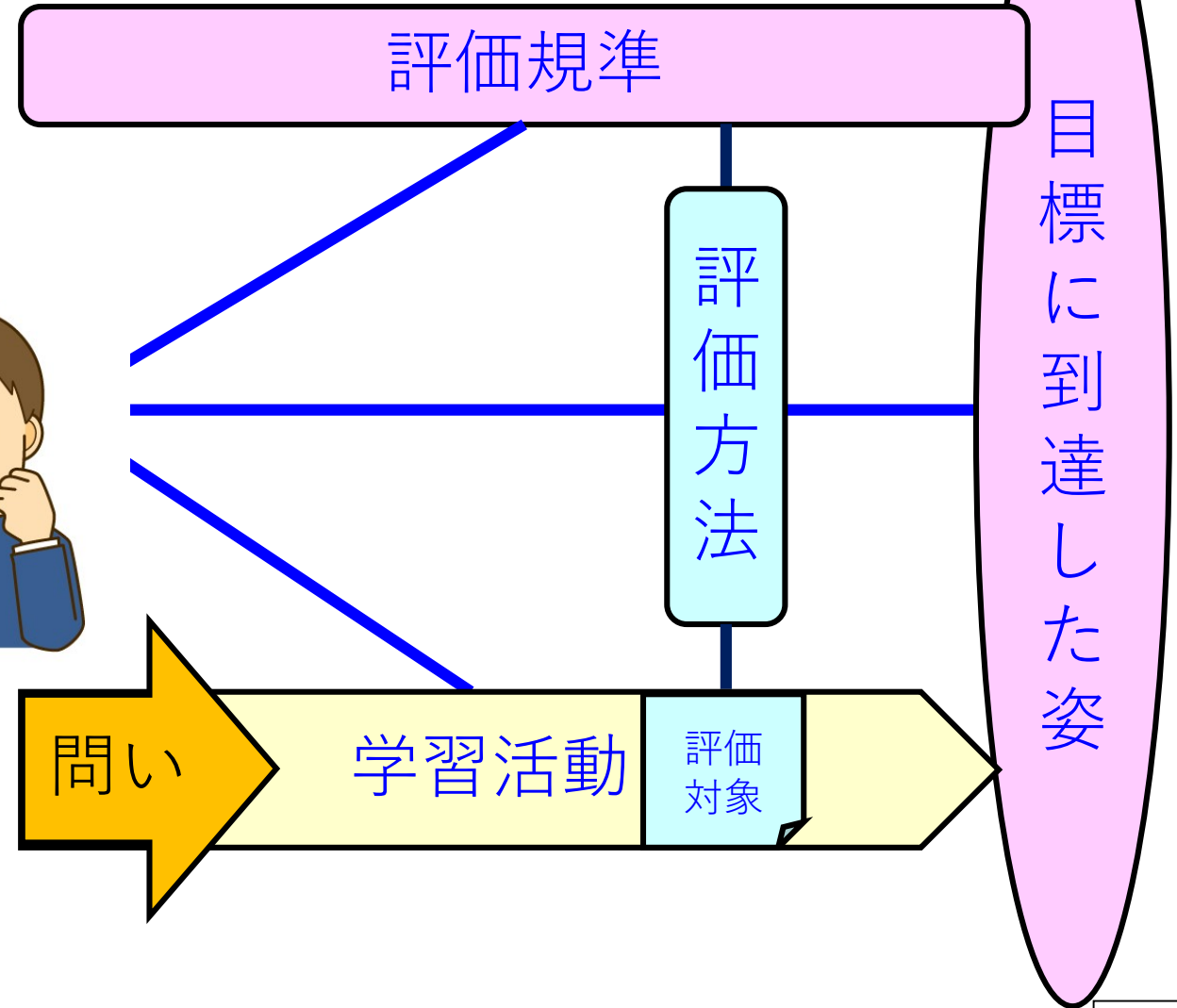
目標に到達した生徒の学習の状況を具体的に想定して評価規準を設定し、その評価規準と評価方法、学習活動に一貫性をもたせた単元を設計する。

【2】

目標の到達に向けて、生徒の思考を促し、生徒が試行錯誤しながら学習活動に取り組むことを求めるような問いや学習課題を設定する。

【3】

単元の評価規準と学習活動の関係を生徒が理解できるように明示する。



【4】

段階的・継続的に相互評価を導入し、生徒が自己の学習の状況を把握し学習を調整できるようにする。

【5】

生徒が自分の学習の過程を見直して、次に向けた改善について考えられるようなフィードバックをする。

評価規準

評価規準に到達する条件は？
次に何をすれば？

- ・なぜこのように書いたのですか。
- ・どこからこのように言えますか。
- ・何を調べたらよいでしょうか。

評価
対象

評価
対象

評価
対象

協働的に学習改善へ

学習改善に向けてメタ認知を促す

【6】

学習改善を前提にして，生徒が協働的に学習を進める文化を醸成する。

失敗を恐れず，
協働的に学習改
善を進める文化



3年

2年

1年



文化を教員間で
も共有

実践上のポイント

【1】

目標に到達した生徒の学習の状況を具体的に想定して評価規準を設定し、その評価規準と評価方法、学習活動に一貫性をもたせた単元を設計する。

【2】

目標の到達に向けて、生徒の思考を促し、生徒が試行錯誤しながら学習活動に取り組むことを求めるような問いや学習課題を設定する。

【3】

単元の評価規準と学習活動の関係を生徒が理解できるように明示する。

【4】

段階的・継続的に相互評価を導入し、生徒が自己の学習の状況を把握し学習を調整できるようにする。

【5】

生徒が自分の学習の過程を見直して、次に向けた改善について考えられるようなフィードバックをする。

【6】

学習改善を前提にして、生徒が協働的に学習を進める文化を醸成する。

実践上の課題

評価規準を単元の学習活動と結び付いたものにすること。

学習改善を意図して評価規準を生徒と共有すること。

評価場面を計画的に設定すること。

生徒の思考を見取れるような発問をすること。

生徒が学習改善に役立てられるようなフィードバックをすること。

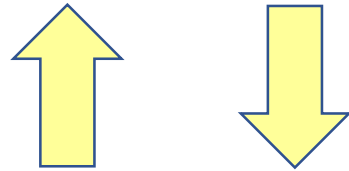
生徒による学習改善に向けた自己評価や相互評価を実施すること。

【6】学習改善が前提, 協働的に学習を進める文化

【1】評価規準(具体化)－評価方法－学習活動の一貫性

【2】思考を促す問いや学習課題

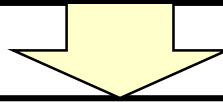
【5】次の学習を考えさせるフィードバック



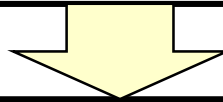
【4】段階的・継続的に相互評価を導入

【3】評価規準－学習活動の関係理解

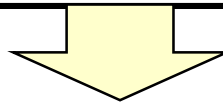
6つのポイントに基づいた事例作成



重点とするポイントを踏まえた実践・検証



6つのポイント・事例の練り上げ



中学校の校内研修等に活用できる資料として提示

御指導いただいた
広島大学 濱野清 様

視察，聴き取り，実態調査に御協力いただいた
学校，関係課の皆様

ありがとうございました。

